令和４年度　神奈川県小・中学校教育課程研究会　　提案資料

部会名　道徳部会

【令和４年度神奈川県小・中学校教育課程研究会研究主題】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【テーマ】

児童の考えを深めるための授業の工夫と素地づくり

地区名　　県央地区
所属校　　座間市立相模が丘小学校
氏　名　　小島　佑太

※児童の写真、ノート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

１　はじめに

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別の教科　道徳編」で示されている道徳教育について、私は答えが一つでない問題に対して自分なりの考えをもち、よりよい答えを導き出し自らの生き方を振り返りながらよりよく生きることだと考えている。

また、グローバル化が進む中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しながら生きることや社会や経済の変化の中で人々の幸せと社会の発展の調和的な実現を図ることが重要な課題であると示されている。

これらのことを踏まえて、道徳教育において、教師が特定の価値観を押し付けたり、児童の考えを尊重せずこちらの指示に従って行動するように指導したりすることはあってはならず、「特別の教科　道徳」は発達段階に応じて、道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」を目指している。

しかしながら、世界的な規模で蔓延しているコロナウイルス感染症により、令和２年度から臨時休業や分散登校、教育活動の制限、新しい生活様式などにより児童の積極的な考えを発表する機会が少なくなり、「特別の教科　道徳」が意図している「考え、議論する道徳」が難しくなった。そこで新しい生活様式の範囲内で「特別な教科　道徳」をはじめ、他教科でも「考え、議論する」授業になるような手立てを講じていこうと考えた。さらに、自分事として考え本音で意見を述べることに少なからず苦手意識をもっている児童もいることから、より自分の考えを友達に示しながら学びを深めていく授業の工夫をすることが大切だと考え、以下のような研究テーマと仮説を立て、実践に取り組むことにした。

２　研究テーマ

児童の考えを深めるための授業の工夫と素地づくり

（１）　テーマ設定の理由

本研究は、「令和３年度　第６学年」を対象に行った。

①学校教育目標及びめざす児童像

＜学校教育目標＞
「豊かな心をもち、よりよく生きる子どもたちの育成」
さいごまで**が**んばる子　**み**ずからまなびかん**が**える子
おもいやりと**か**んしゃの心をもつ子　けんこうでたくましい子

＜めざす児童（学校）像＞
一人ひとりが輝く子どもに

道徳教育と道徳科

（「第１章　総則」の「第１　小学校教育の基本と教育課程の役割」の２の（2）　２段目）学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道徳科の目標

（「第３章　特別の教科　道徳」の「第１　目標」）第１章総則の第１の２の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行う」という点に着目し、道徳科の授業だけでなく、他教科・領域でもその特質を生かして指導しようと考えた。

③児童の実態

第１回　道徳アンケート（６月１０日実施）　（単位は％）

	質　　問	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	道徳の授業は好きだ	41	32	27	0
2	道徳の勉強はためになる	79	21	0	0
道徳の授業の時間に…					
3	自分のこれまでの生活のことを思い出しながら考えようと思う	52	45	3	0
4	物事には、いろいろな見方や考え方があると思う	69	31	0	0
5	友達の考えを聞くと、自分の考えがより深まると思う	73	21	3	3

道徳アンケートの結果より、質問１と質問３の「そう思う」が他の質問に比べて低い結果となった。質問１について「あまりそう思わない」が２７％おり、その理由を見ると「思っていることをうまく発表できないから」「あまり人前で発表することが得意ではないから」「自分の意見を言えずに話を聞くだけになってしまうから」というものだった。これらの理由から、道徳の授業の中で特に「自分の意見を発表すること」について苦手意識があることがわかる。そして、質問３から教材文を読んでも自分事として考えられていない可能性があると考えた。

また、質問５に対して、「あまりそう思わない」「そう思わない」がそれぞれ３％ずついた。その理由は「友達の意見を聞いても自分の考えが変わらないから」というものだった。この理由から、児童の多様な考え方を十分に生かした授業ができていなかった可能性があると解釈した。

学校教育目標にある「さいごまでがんばる子　みずからまなびかんがえる子」はどの授業に対しても最後まで諦めずに取り組むこと、自ら積極的に学び友達と共に考えることを表している。また、学習指導要領に示されているように「学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと」とある。さらに、道徳科の目標に迫るために「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と掲げられている。よって学校教育目標、新学習指導要領、児童の実態を合わせて「児童の考えを深めるための授業の工夫と素地づくり」というテーマを設定した。

以上を踏まえて研究テーマに迫るために、次のような仮説を立てた。

（２）テーマ達成のための仮説

仮説【１】アピールボードの使用等の手立てを講じることで、児童は自信をもって考えを発表できるようになり、考えの深まりにつながるのではないか。

仮説【２】道徳科以外の他教科などでも話し合い活動に重点をおいた授業を展開すれば、道徳科の授業でより「考え、議論する」道徳になるのではないか。

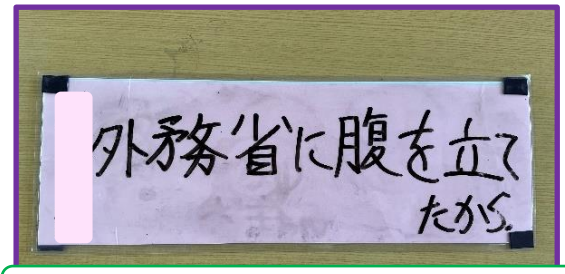
仮説【３】日頃から児童の考えを認め価値づけることによって自分の考えを相手に伝えたい、友達の考えをより深く理解したいという意欲につながるのではないか。

３　研究内容

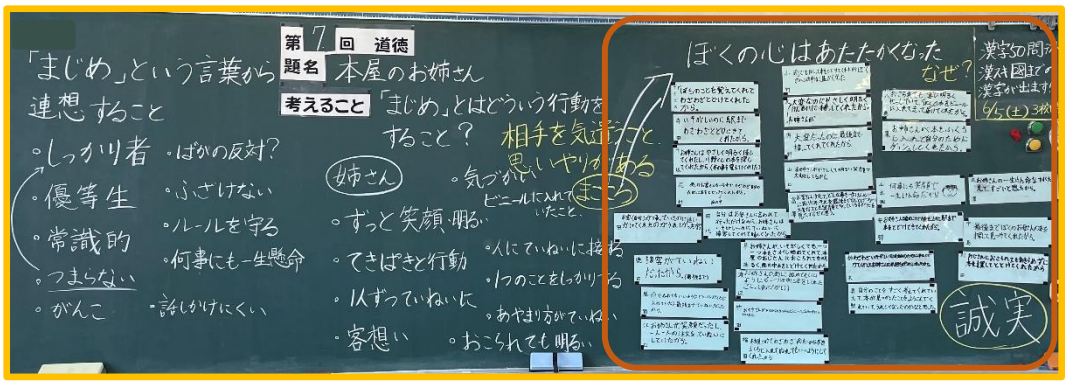
【１】アピールボードの活用

（１）道徳科の授業でのアピールボードの活用

アピールボードとは、表裏で色の違う紙をラミネートして、両面に磁石を貼りつけたものである。本校で道徳科の校内研究をしていた時に使用したもので、今回の研究でも活用した。感染症対策として、話し合いが制限される中、水性マジックペンでアピールボードに自分の考えを書いて黒板に貼ることで、最小限の話し合いで友達と意見を交流することができると考えた。



「六千人の命を救った決断―杉原千畝」より



◎アピールボードの活用をより効果的にするために、具体的に次のような取り組みを行った。

①<u>自分の考えを示して意見交流</u>

アピールボードを用いて相手に自分の考えを示して発表しやすくした。視覚的に示すことによって最小限の意見交流で内容理解が深まった。

②<u>内容項目の整理</u>

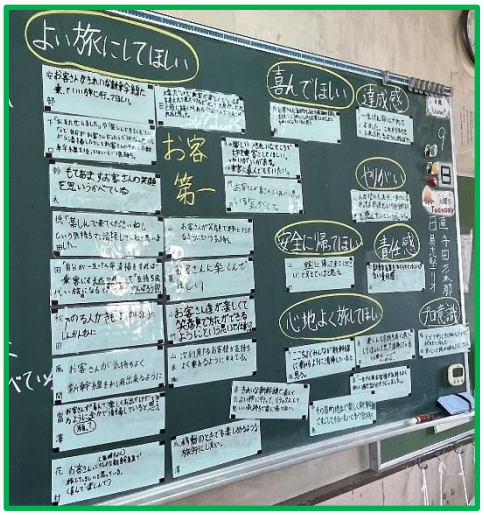
児童の考えを黒板に貼る際に、友達の意見と似ている場合はその友達のアピールボードの近くに貼りつける。そうすることで児童の考えを内容項目ごとにまとめることができ、多角的に示すことができた。その結果、児童の多様な考えを認め、より考えを深めることにつながった。

③<u>複数の考えをもつこと</u>

アピールボードの表裏で色が異なるようにすることで複数の意見を書いて示しやすくしたり、友達の意見を聴いて今まで自分のもっていた考えとは異なる考えをもったりすることができるようにした。

◎アピールボードの有用性について

市内の小中学校全校においてタブレット端末が児童１人に１台貸与されていることから、ICT を用いた意見交流も検討した。しかし、アピールボードは自分の考えをすぐに書き表すことができる、アピールボードを手で持って友達に見せながらグループや全体の場等で発表することができる、書いたことを再度確認することができる、タイピング技術に左右されず時間短縮できる、板書との親和性が高いなどの利点がある。本研究ではその利点を生かして授業を進めた。



新しい生活様式の中、アピールボードを用いることで児童同士の交流の場を確保しつつ、視覚的に示すことで児童の多様な考えを共有することができるようになる。

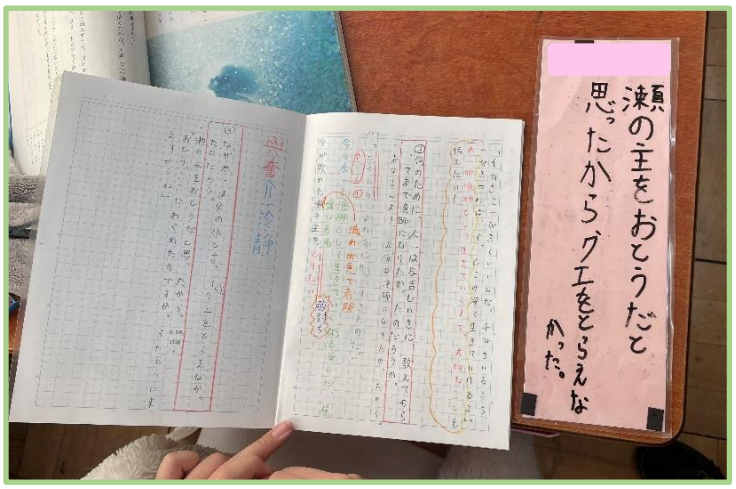
（２）他教科などでのアピールボードの活用

道徳科の授業だけでは、自分の考えを友達に示すということが難しい。そこで、他の教科でもアピールボードを用いて自分の考えを発表する練習を繰り返し行った。

①国語科

（Ｄ自然愛護　感動、畏敬の念）

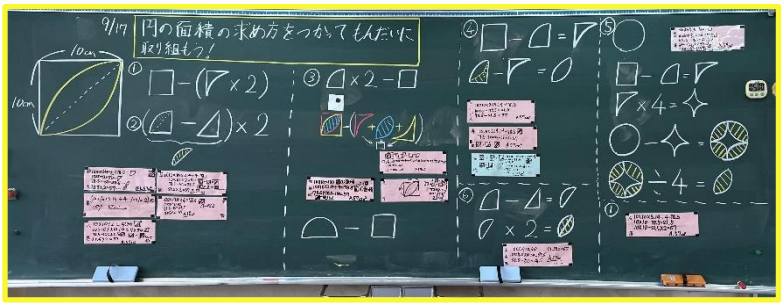
今回実践したのは、光村図書出版６年国語に収録されている「海の命」を題材として用いた。児童の初発の感想をもとに学習課題を設定し、その課題に対して一人学びをする時間を取り、アピールボードに意見を記入し友達と共有した。アピールボードを縦置きにして縦書きで書けば国語科の授業でも生かせると考えた。



②算数科（Ａ真理の探究）

「円の面積」の単元の円の面積の求め方の応用で、工夫して面積を求める際に様々な解き方があるため、一人学びの時間を多く取ってアピールボードに記入した。みんなの前で自分の考えを発表し、黒板に貼った。

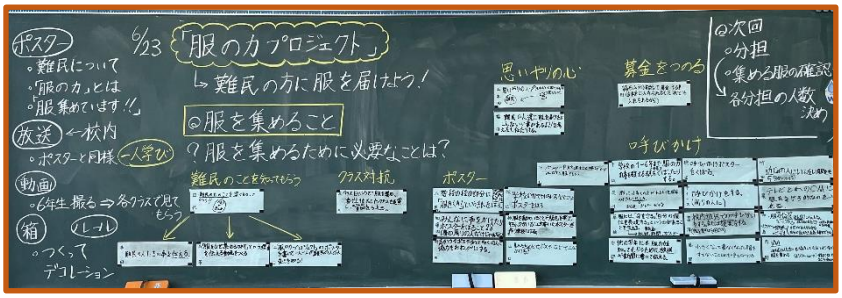
道徳科の授業と同じように、複数の考えを思いついた場合は裏面にも自分の考えを記入し、両方発表できるように声をかけた。



③総合的な学習の時間

（Ｃ国際理解、国際親善）

「今自分たちにできること」をテーマに「服のカプロジェクト」を実行していくにあたり、一人一人の主体的なアイディアを尊重し進めた。



アピールボードを貼っていくことで自分の考えと友達の考えが似ていたり、違っていたりするのが視覚的にわかり、児童も自ら積極的に話す姿が見られた。また、アイディアとアイディアの融合案も出しやすくなった。

④家庭科（C 家族愛、家庭生活の充実）

家庭科担当の教諭と栄養教諭とが協力して、弁当作りのポイントについてアピールボードを用いて児童に意見を聴きながら意見をまとめていた。

⑤学級活動（B 相互理解、寛容）

学級活動では、校外学習が延期となり、その間に席替えをしたため、予定していた班で校外学習に行くべきか、新しい班で校外学習に行くべきかを話し合った。その際にアピールボードを用いて自分の考えをしっかりもつこと、友達の考えを理解することなどを学ぶことができた。

アピールボードを道徳科だけでなく様々な教科などで活用することで自分の考えを表現しやすくなった。結果的に、道徳の授業で自分の考えをもったり友達の考えと比べて発言したりしてより児童の考えが深まった。

【２】話し合い活動の充実

（１）道徳科での工夫

①児童同士で考えをつなげる

主発問に対して児童が自分の意見を述べる際に、教師が指名するのではなく児童同士で指名し合い、意見をつなげるようにした。そうしたことで、教師がもっている答えに近い意見を予測して発言してしまう児童を少なくすることができた。また、本音で自分の意見を言いやすい環境をつくることができた。

②関連する内容項目の確認と主発問の工夫

児童のそれぞれの考えを大切にするために、本時の主項目と関連項目を確認し、発問に対して多面的・多角的に受け止めることができるようにした。そして、児童が「考えたい！」と思えるような主発問を１～２つ考えて授業を行うように心がけた。主発問を考える時に、場合にもよるが「どうして～だろう」という発問より「何が～」や「何に～」という言葉で発問すると児童が意見を言いたいという思いにさせることがわかった。また、主発問で十分時間を取って児童が考える時間を確保できるようにするために補助発問で時間を使いすぎないように意識した。（P９参照）

③問い返しの想定

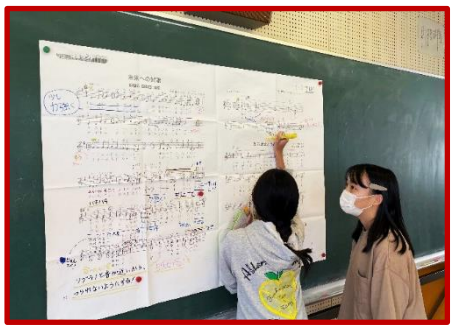
主発問などに対して児童の考えが、教師側が意図しているものでなかった場合に、児童の自由な考えを受け止めつつもう少し深く考えてもらいたい際の問い返し（追加発問）を、内容項目から逸脱しないように注意しながら行うように心がけた。

（２）他教科での工夫

①音楽科（B 友情、信頼）

２学期が始まった時、感染症が猛威を振るっていたため、音楽の授業は制約が多くあった。

・歌唱や器楽については行わず、延期して今できることをする（鑑賞などを先にやる）



これを受けて、楽譜を拡大して「どのような思いをもってこの曲を歌うか」を児童に考えさせ、自分の思いや考えを言い合いながら児童主体で書き込んだ。また、運動会や修学旅行が終了した１１月の終わりに６年生中心の音楽発表会を開催した。クラスごとに曲を選び、それぞれのクラスで話し合いを重ねて歌う曲に対する思いや考えを共有した。話し合いを重ねるごとに一人一人が本音で話をすることができるようになり、道徳科の授業でも意見交流する際に本音で話すことにつながった。

「授業デザインシート」…使用する教材の「主項目」「関連項目」をあらかじめ把握し、「児童の実態」をもとに“何を考えさせたいのか”“より考えを深めるために主発問をどうするか”などを授業の準備段階で練って取り組んだ。

「主項目」と「関連項目」をあらかじめ把握することで、児童の自由な考えを受け止めつつ本教材でおさえたい内容がブレないようにする。

特に大事にしたのが「児童の実態」で、本学級の児童の普段の生活を思い浮かべて“どんなことを考えてほしいか”ということを整理した。

「本時の展開」では、教材の内容理解はなるべく短縮して確認程度にし、児童が「考えたい！」と思うような主発問を教材のポイントをおさえながら１～２つ考えた。

㉖ 命のおにぎり　10/5(火) 5校時

主題のねらい　5 親切、思いやり　関連 感謝

親切な行為は、困っている人を放っておけない心から生まれていることがわかり、自分も人に対して親切にしようとする。

児童の実態

- 友達に対して優しい。
- 自分勝手に行動する児童は少ない
- 相手の気持ちなって手を差し伸べることができる人が多い
- 忖度しすぎて行動に移せない児童がいる（考えすぎる）
- コロナ禍の影響から、自分のこととしてでなければ行動しない児童がいる
  ↳隣の席の人が休んでいて、机の上に配付物や教科書が置いてあっても、見て見ぬふりか、気付けていない、そのまま

教材観

- 福島県で大雪のため トラックが立ち往生。食べものはなし。一晩を明かす。
- 仮設住宅の人々が おにぎりをにぎって届けてくれた。

気づき ① 気付く（相手の立場になる）

行動 ② 行動に移す → ③ よりおいしくなるように具材は自分たちで。
④ 冷めないように発泡スチロールに入れて
⑤ 1m以上積もった雪の中、1台1台に回っておにぎりを届けた

- 増子さん 感謝のインタビュー ⇒ 住民「軽い気持ち」「恩返し」
  2011年 東日本大震災の被災者
  ↓ 新聞の記事を見て
- 広島の人 ⇒ この話をもとに 紙芝居を作成『おたがいさま―命のおにぎり―』14:10
- 住民 紙芝居を読んで、「人様のお役に立ててよかった」目には涙があふれていた

本時の展開

13:30 ① 人の温かさを感じた時のエピソードを話し合う（事前アンケート）→本文読む

13:40 ② 仮設住宅の人たちは、なぜおにぎりを持っていこうと思ったのか？

ポイント1 大雪で車が一晩立ち往生　福島県での出来事
どこで何があったの？簡単に！

ポイント2 食べるものがなく、トラックからも離れられない状況
買いに行けばいいじゃん!? 何故できない？

ポイント3 仮設住宅の人たちは何をしたの？
↓
おにぎりをにぎって渡した

ポイント4 どんなおにぎり？
↓
具材の入ったのりも巻いてある温かいおにぎり

⇒ そもそも

なぜおにぎりを持っていこうと思ったのかな？

- 放っておけない
- 役に立ちたい
- 恩返し

増子さんは何に感謝しているの？
- 行動に移してもってきてくれたこと

③ なぜ仮設住宅の人たちがしたことが多くの人に知られるようになったのか？

ポイント5 このおにぎりの話、この後どうなった？
↳紙芝居になった
↳誰がつくったの？
↳広島の人

その紙芝居はどうなりました？
↳各地で上演されて、広まった。全国に！

なぜ紙芝居がつくられたのかな？ → その紙芝居が広まったのは何故？

- この感動を伝えたいから
- みんなに知ってもらいたいから

→

- 温かい心はつながっていくから
- 思いやりはつながる、人々の心を動かすから
- つないでいきたいと思ったから

④「温かい心」ってどんな心？について自分の考えをまとめよう！

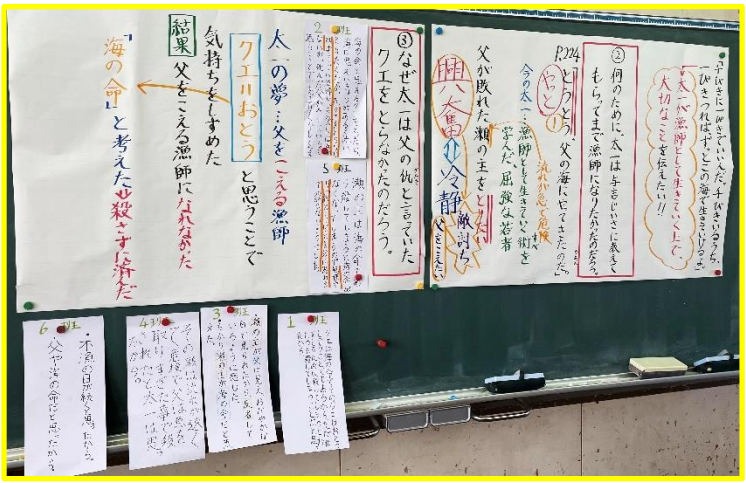
指導観
- 困っている人を放っておけないと思うことから、温かい心が生まれる
- 温かい心はつながる、人々の心を温かくする

②国語科

（D 自然愛護　感動、畏敬の念）

物語文では、児童の素朴な疑問を学習問題として設定し、叙述を基に自分の考えをもち、学級全体で発表する活動を行い児童主体となって内容の理解を深められるようにした。

模造紙に学習問題を書き込むことで前時に学習したことを思い出したり、本時の理解を助けたりする。話し合い活動をより活発にするために書き込んだ模造紙を教室に掲示していつでも見ることができるようにした。そして、児童一人ひとりの考えだけでなく、班の考えを提示するように促すことで一人ひとりが話し合いに参加し、発表しようとする意欲を引き出せるようにした。



③外国語（B 友情、信頼　C 国際理解、国際親善）

単元の終末に学んだ言い回しを使ったスピーチ活動を取り入れ、評価をした。その際、その場で立ちグループでスピーチ練習を行い、お互いによい所、改善した方がよい所を言うようにした。そうすることで普段から自分の考えを言いやすくなる環境を整えることができた。

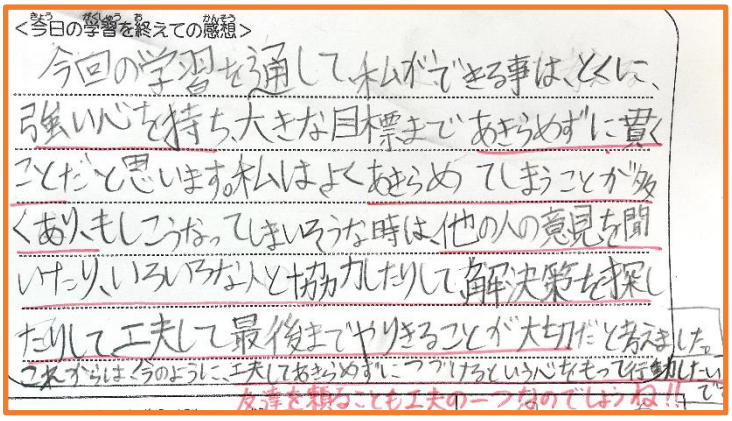
道徳科の授業において、授業前に「児童の実態」「主項目や関連する内容項目」を把握しておくことで児童の多様な考えを受け止めやすくなり、また考えさせたい内容がブレにくくなるため話し合いが活発になり「考え、議論する」道徳につながった。また、準備段階で主発問を工夫したり、ゆさぶり発問や「問い返し」を事前に想定したりすることでより深まりのある話し合いに変わった。

さらに、他教科でも話し合い活動を意図的に入れることで自分の考えを安心して友達と共有することができるようになった。そのため、道徳の授業においても自分の考えを本音で話すことができるようになり、「考え、議論する」道徳に近づいた。

【３】意欲的に自分の考えをもつようにする工夫

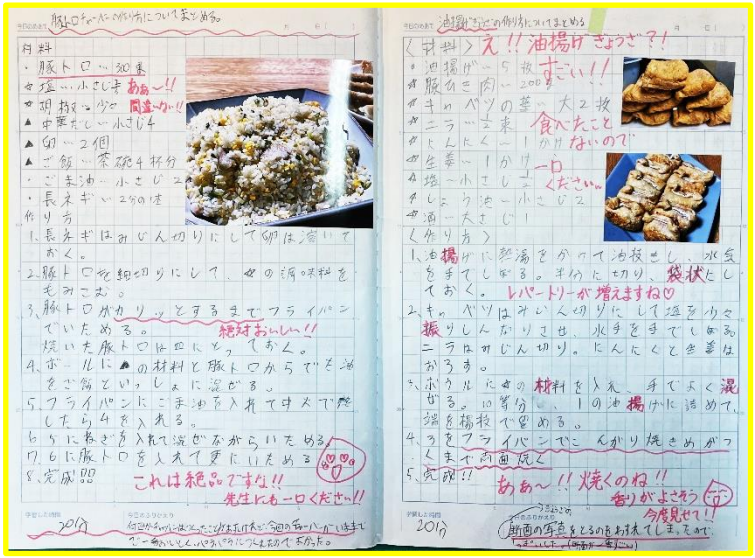
（１）道徳科における振り返り

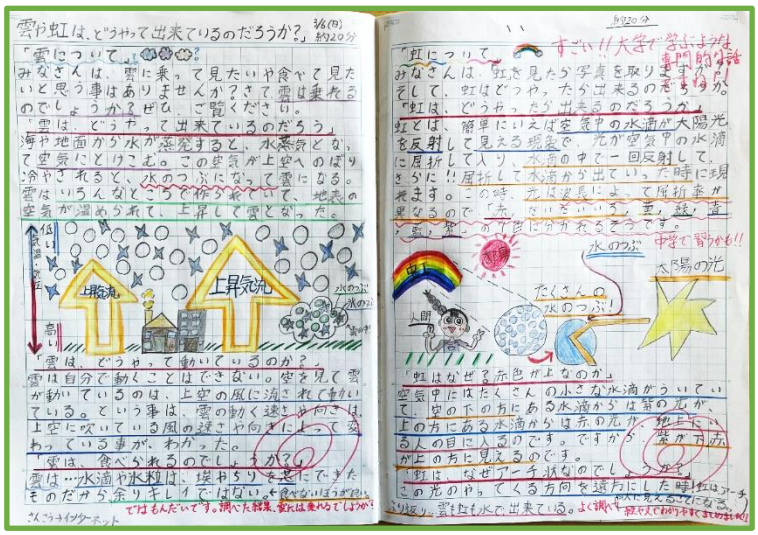
本校では、児童が道徳の授業の振り返りをするためにワークシートを用いている。「授業を始める前の考え」、「授業を通して気付いたこと」、「これからどのようにしていきたいか」といった書き方をあらかじめ提示しワークシートに記入するように指導した。また、児童の考えを価値づけるためにキーワードになるところにアンダーラインを引き、児童の考えを認めるコメントを毎時間書くようにした。また、児童の本音の考えを尊重し、また正しい意見を言わなければならないという思考にならないようにあえて花丸を書かなかった。こうすることで授業での話し合い活動や振り返りの時に自分の本音を出すことができるようになり、話し合いがより深まった。



（２）自主学習ノートの活用

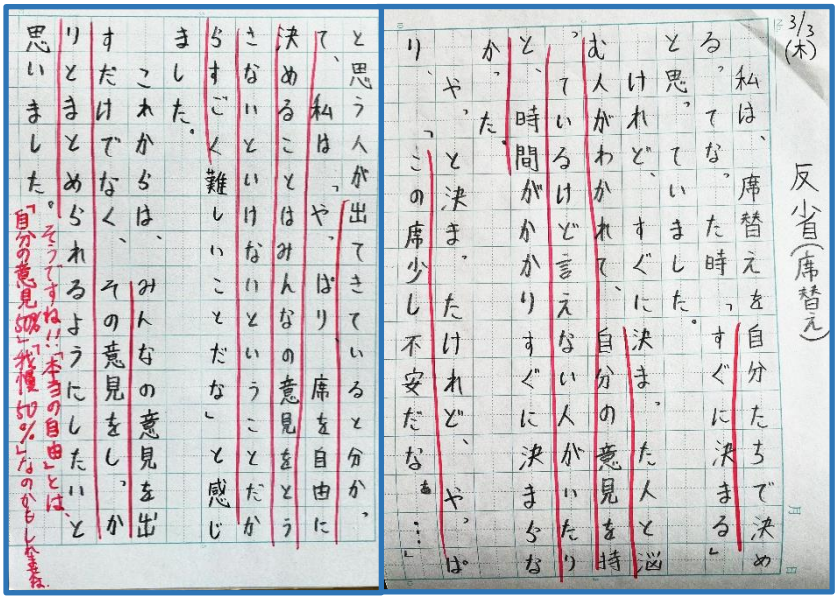
自主学習の習慣を身につけるために、自主学習ノートを用意し取り組んだ。内容は各教科の復習や予習、自分が興味をもった内容を調べて理解を深める調べ学習、学校ではできない体験活動の記録、各行事の振り返りなどである。自主学習ノートを進めるにあたり、必ず「めあて」と「振り返り」を書くように伝えた。そして、児童の頑張りを認めるコメントを毎回書くようにした。そうすることで意欲的に取り組む児童が増え、道徳科のワークシートに書く内容も自分の考えを素直に書く児童が増えた。さらに、児童同士で自主学習ノートを回して読み合うことでさらに刺激を受け、取り上げる題材も増え、意欲的になった。家庭とも連携し、保護者にコメントをもらったり、個人面談の時に自主学習ノートのよかった点などを話して児童に伝えてもらったりした。最初はどのように取り組んだらよいかわからない児童もいたが、自主的に取り組む児童が増えて道徳の授業でも生かされた。

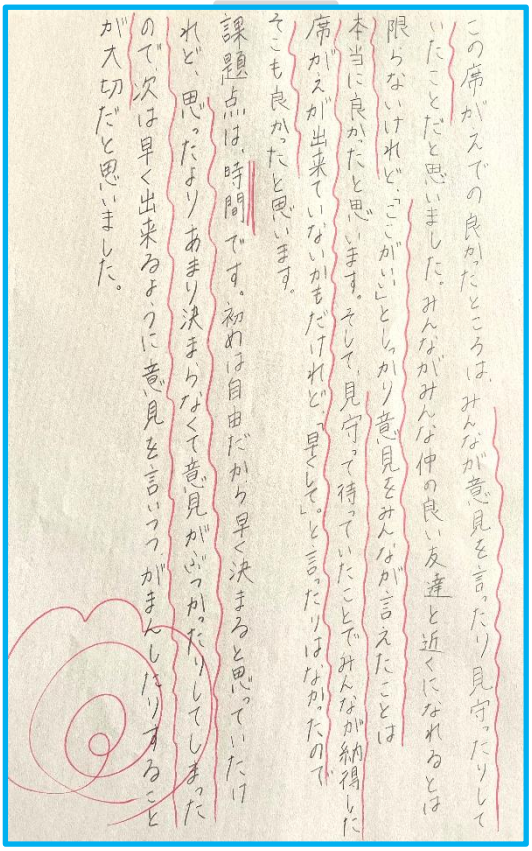




（３）日記の活用

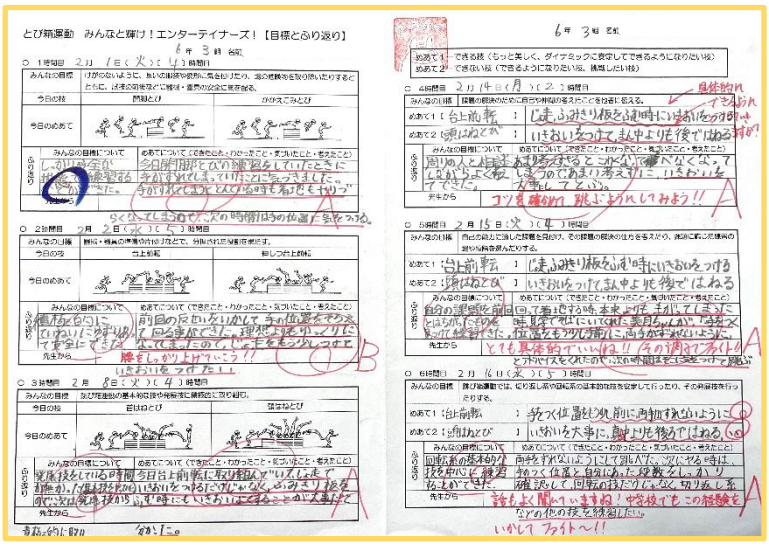
B5 サイズのノートを２つに切り、その１つを日記帳として活用した。児童の率直な意見や考えについて、コメントを書いて価値づけた。気をつけた点は、児童の考えを否定しないように「認める」文面にしたことだ。結果的に自分の素直な考えを書くことにつながり、道徳の授業でも自分の本音を伝えることにつながった。





（４）他教科などでのワークシート活用

道徳科以外の教科のワークシートでも児童の考えを認めるコメントを記入するように心がけた。少しずつ自分の考えを具体的に書けるようになり、道徳科でも自分事として受け止め具体的に記入することができるようになった。この取り組みは、最初の道徳アンケートで「自分事として考える」項目が他の項目よりも低かった点を改善する活用になった。



「考え、議論する」道徳の授業を目指す際に、まずは自分の考えをもち、表現したり伝えようとしたりすることが大切になる。道徳科だけでなく、あらゆる教育活動で自分の考えを表現する活動を行い価値づけることで、「自分の考えを相手に伝えたい」「友達の考えをより深く理解したい」という意欲につながった。

４　研究実践　　第６学年　道徳科学習指導案

座間市立相模が丘小学校
指導者　小島　佑太

１　日　　時　　令和３年 １０月２９日（金）　第３校時（１０：４５～１１：３０）

２　場　　所　　第６学年　３組（２９名）　６年３組　教室

３　主　題　名　　かたよらない心【C　公正、公平、社会正義】

４　ね　ら　い　　だれに対しても偏見をもつことなく公正、公平に接するよさに気付かせ、正義を実現しようとする態度を育む。

５　教　材　名　　「森川君のうわさ」（小学道徳　ゆたかな心　６年　光文書院）

６　主題設定の理由

（１） ねらいや指導内容について

本主題のねらいは、「小学校第３学年及び第４学年」の【公正、公平、社会正義】「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」からの発展項目であり、「小学校第５学年及び６学年」の「C 主として集団や社会との関わりに関すること。」の【公正、公平、社会正義】「だれに対しても偏見をもつことなく公正、公平に接することのよさに気づき正義を実現することで、いじめのないクラスにしようとすること」である。これは中学校の内容項目【公正、公平、社会正義】「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」へと発展していく。

人間は、それぞれの固有の存在であり、違った価値観をもっている。それぞれ尊重すべき人格であるが、ときに、相手によって態度を変えたり、自分の気分や好き嫌いで行動したりしてしまうことがある。だからこそ、そのような自分の弱さに目を向け、常に偏りはしないかと己を厳しく見つめていくことが大切である。

公正とは、自分の気分や相手の様子にかかわらず、同じ基準で正しいことを通そうとすることであり、公平とは、同じ視線で接しようとすることである。そして、人間の弱さを認識したうえで、公正、公平でありたいと願い、実践していくことで、正義を実現しようとする生き方になり、自分にとっても相手にとっても気持ちのよいものとなるように本主題を設定した。

（２） 児童のこれまでの学習状況や実態

今年度、【公正、公平、社会正義】の内容項目について扱うのは初めてである。【公正、公平、社会正義】に関しては、多くの児童が公正、公平に友達と接するべきであると頭では理解している。しかし、性別の違いによって声のかけ方や態度が違ったり、仲のよい友達とそうでない友達の接し方が異なっていたりと現状ではだれに対しても公正、公平に接することができる児童は少ない。また、自分自身が人によって態度を知らず知らずのうちに変えてしまっていることに気づいていない児童も見受けられる。

児童の学習状況は、道徳の授業に関して、自分の素直な気持ちを表現してもよい、答えがたくさんあるから面白いという点から興味関心が高い児童がいる。しかし、以前行ったアンケート結果にも出ているように、「思っていることをうまく発表できない」「文章を読み取り、その人の気持ちを考えなければならない」「あまり人前で発表することが得意ではない」といった苦手意識をもっている児童が数名いる。

５年生で「ガンジーのいかり」を学習し、人は肌の色で差別してはいけないという人種差別の問題から、間違っているものは間違っていると声に出して言うことや自分の信念と正義を貫き通すことの大切さについて学んでいる。

本教材を通して、自分が弱さをもつ存在あることを認識したうえで、おかしいと思うこと、理不尽な扱いに対して誰に対しても公正、公平であろうとする心を育みたいと考える。

道徳アンケート（１０月２７日に実施）　　※タブレット端末を使用してアンケートを実施した

質問①　自分のクラスでいじめをしている人がいたらその人に注意できますか？
できる　１０人　　できない　１人　　わからない　１８人

質問②　いじめのないクラスにするために、必要な心ってどんな心だと思いますか？
〇思いやりの心　〇相手を思う心　〇人を憎まない心　〇優しい心
〇お互いを認められる大きな心　〇信用する「信じる」心

（３）　使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、自分のクラスの「森川君」が些細な理由でいじめにあい、仲間外れになるところから始まる。仲間外れをしている児童も明確な理由や自覚がないままに振る舞い、その他の子どもは第三者の立場として様子をうかがっている。そんな中、第三者である「ぼく」は葛藤する。するといつもは大人しい「順子さん」が帰りの会でめずらしく挙手し「森川君」の事実を話し、確かめもしないでいじめることに対しておかしいと発言する。これを聞いていた「ぼく」ははずかしくなり、このあと発言しなければいけないと考えるようになる。子どもたちには、この「ぼく」の視点で自分の体験と関連づけて考えさせたい。そして、順子さんの行動と「ぼく」を比べ、ねらいとする道徳的価値に迫っていく。また、人間の弱い部分に触れ、自分だったらどのように行動していくべきかを考えていく。

特に、次のような発問をして考えさせる。

①　「ぼく」はずるいだろうか。
②　順子さんと「ぼく」を比べて何がちがうのだろう。

①の発問では、「ぼく」の心の動きと行動の不一致より、「ぼく」が心の中で「それはちがう。」と考えていたとしても行動に移していなかったことはずるいことではないのか、心の中に正義の心があればそれはずるい人にならないのかと考えることで、「行動に移す」ことの大切さを考えさせたい。また、ネームカードを黒板に示すことで自分の考えを視覚化できるようにする。

②の発問では、普段は大人しい順子さんが勇気を出してみんなの前で事実を話す行動と「ぼく」の行動

を比べさせたい。その際、順子さんと森川君の関係性を確認し、とても仲のよい友達だということではなくて、誰に対しても同じように関わろうとしている（公平、公正な）ところに触れたい。また、順子さんの中のどんな心が強かったから行動に移せたのかを考えさせて多面的・多角的に捉えると共に、自己のこれからの生き方についての考えを深められるようにする。

本教材ではこれらの発問を通して児童に考えさせることにより、ねらいとする道徳的価値に迫っていく。以上のことから本主題を設定した。

７　「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための工夫

（１）　問題意識をもち、自己の生き方について考える

・登場人物である「ぼく」の人間の弱い部分に触れながら、問題意識をもって授業に臨み、一人ひとりの児童が自己を見つめてじっくりと考えられるようにする。

（２）　多面的・多角的に考える

・うわさに対して「それはちがう。」と言い返せなかった「ぼく」に寄り添いながら、順子さんの行動は誰に対しても分け隔てなく接しようとする「公正・公平の心」、友達を大切にしようとする「親切、思いやりの心」、よりよい人間関係を築こうとする「友情、信頼の心」、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校にしていこうとする「よりよい学校生活、集団生活の充実の心」など様々な思いがこもったものであったことに気づかせられるようにすることで、価値理解と共に、物事を多面的・多角的に捉えられるようにする。

（３）　自己との関わりで考える

・自分の経験と照らし合わせ、「ぼく」の「それはちがう」と言い返せなかった様子や気持ちを話し合わせることで、自分事として考えられるようにする。

８　関連連携のための指導計画

＜種まき＞

①　各教科・・・「本当にこの答えで正しいの？〇〇さんが発言したからこの答えは正しいの？」とゆさぶる。

②　学活・・・「いじめ」の構図（被害者、加害者、観衆、傍観者、仲裁者）について確認する。

＜事後＞

③　学活・・・クラス目標を見直し、誰もが楽しめるクラスとはどんなクラスかを話し合う。

９　学習指導過程

	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1.いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。	・思いやりの心 ・友達を大切にする心 ・相手の気持ちを考える心	事前にアンケートをして掲示する。
展開	2．今日の学習課題を知る。 いじめをなくすために必要な心とは		
	3.「森川君のうわさ」のあらすじを聞き、内容を確認する。 ○「ぼく」はなぜ「それはちがう」と言えなかったのでしょう。 ●もしとても仲がよい友達だったら「それはちがう」と言っていたのかな？　その違いって何だろう。	・言い争いになったらめんどうだから。 ・石山君たちに嫌われたくないから。	・事前に教材を読み、内容を十分理解できるようにする。 ・「ぼく」の気持ちになって正しいことが言えない人間の弱さに気づかせる。
	4.「ぼく」はずるいだろうか。両矢印の表に自分の考えを示す。（ネームタグを貼る） ●ゆさぶり 心の中では「言わなければ」と考えているから、ずるいとは言えないのでは？	・行動に移していないからずるいよ。 ・でも順子さんの発言を聞いて自分をはずかしく思っている人だから「ずるい」寄りじゃないかな。	・ワークシートの表に「ぼく」の立ち位置を「心のものさし」で示し、その理由を考えさせ、いじめをなくすために必要な心は何かを考えさせるようにつなげる。
	5．順子さんと「ぼく」を比べて何がちがうのだろう。	・誰に対しても分け隔てなく接しようとする心 ・友達を大切にしようとする心 ・よりよい人間関係を築こうとする心 ・みんなで協力し合ってよりよい学級や学校にしていこうとする心。	・順子さんの行動の裏に正義を貫く強い心があることに気づかせる。 ・どういう心をもつことがいじめをなくすことにつながるかを考えられるようにする。
	6．いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。		・自己のこれからの生き方についての考えを深められるようにする。
終末	7．教師の説話を聞く。		・「その時」に言わなかったことで後悔したエピソードを話す。

１０ 児童の評価の視点

・根拠のないうわさに対して、「ぼく」が言い返せないという人間の弱さに気づき、それでも正義を貫き行動しようとすることの大切さを考えようとしたか。

・自分の考えだけではなく、友達の発言を通して、多様な考え方があることを知り、受け止めようとしていたか。

１１　板書計画

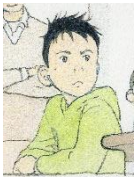
第　１９　回　道徳　『森川君のうわさ』

いじめのないクラスにするために必要な心とは

森川君のうわさ

お父さんが作品を作ったのでは？

「それはちがう。」と言えなかった

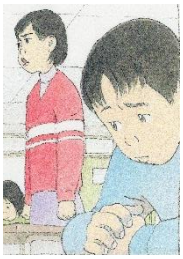


・自分もいじめられたくない

森川君　元気がなくなる

・あの時言えばよかった

・早く３学期終わらないかな



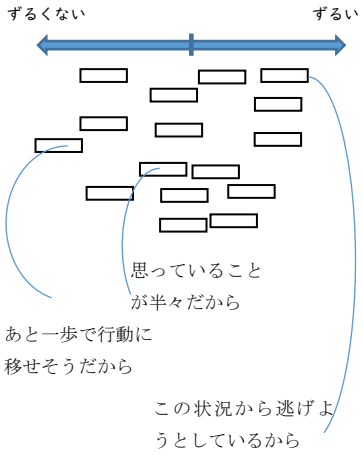
順子が発言

・自分も言わなきゃいけない

・見習いたいな

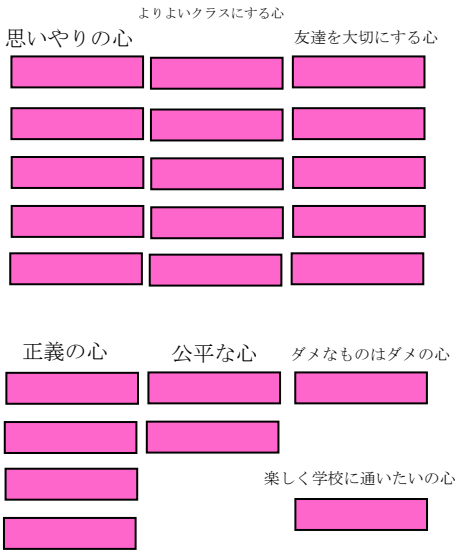
・勇気を出して言うぞ

「ぼく」はずるい？



順子さんと「ぼく」を比べて何が

ちがうのだろう？



〇タブレット端末でアンケートを実施、電子黒板に提示

電子黒板

質問①　いじめをしている人がいたらその人に注意できますか？

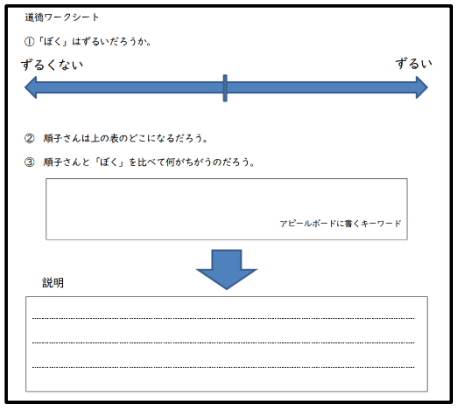
できる　１０人　　できない　１人　　わからない　１８人

質問②　いじめのなくすために、必要な心ってどんな心だと思いますか？

〇思いやりの心　〇相手を思う心　〇人を憎まない心　〇優しい心

〇お互いを認められる大きな心　〇信用する「信じる」心

〇ワークシート



授業記録１（ゆさぶりの場面）

	学習活動（主な発問）
導入	1.いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。
展開	2．今日の学習課題を知る。 3.「森川君のうわさ」のあらすじを聞き、内容を確認する。 ○「ぼく」はなぜ「それはちがう」と言えなかったのでしょう。 ●もしとても仲がよい友達だったら「それはちがう」と言っていたのかな？　その違いって何だろう。 4.「ぼく」はずるいだろうか。両矢印の表に自分の考えを示す。（ネームタグを貼る） ●ゆさぶり 心の中では「言わなければ」と考えているから、ずるいとは言えないのでは？ 5．順子さんと「ぼく」を比べて何がちがうのだろう。 6．いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。
終末	7．教師の説話を聞く。

ゆさぶり（しかし予想と逆の児童が多くいた）

「ぼく」のことをずるいと思う人が少なかったため、ゆさぶりの言葉を変えた。

T：この時、森川君は事実（森川君が自分で工作したことを「ぼく」が知っているということ）を知っているんだよね？この時森川君、しょんぼりしているけどさ、どう思っていたんだろうね？「（ぼくに向かって）お前、知っているんだろ？お前知っているんだろ？」って思ってたかもしれないよね。

T：**でもだってさ、言わなかったじゃん。言おうかなーって思ってただけで、言わなかったじゃん。ひきょう者なんじゃないの？**

C1：こんなに広がらないって思ってたから…。

（悩んでいる児童を多数見ることができた）

↓

この後、主発問につなげた

「『ぼく』はずるいだろうか」という発問に対して「心のものさし」を用いて自分のネームタグを黒板に貼って自分の考えを示すという活動を行った。しかし、予想していた反応と違う児童が多くいたため、用意していたゆさぶり発問を使用せず、咄嗟に逆のゆさぶり発問に変えて児童に投げかけた。事前に逆のゆさぶり発問を万全に用意していたわけではなかったが、登場人物の相関図を書き、それぞれがどう考えているかを整理していたことで落ち着いて児童への発問を変えることができた。こちらが予想していた児童の反応と違うことがあることを想定し、作成した授業デザインシートや指導案にこだわることなく、目の前の児童の反応を見ながら、状況に応じて児童と共に授業をつくる意識を大切にしていきたい。

授業記録２（問い返しの場面）

	学習活動（主な発問）
導入	1.いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。
展開	2．今日の学習課題を知る。 3.「森川君のうわさ」のあらすじを聞き、内容を確認する。 ○「ぼく」はなぜ「それはちがう」と言えなかったのでしょう。 ●もしとても仲がよい友達だったら「それはちがう」と言っていたのかな？　その違いって何だろう。 4.「ぼく」はずるいだろうか。両矢印の表に自分の考えを示す。（ネームタグを貼る） ●ゆさぶり 心の中では「言わなければ」と考えているから、ずるいとは言えないのでは？ 5．順子さんと「ぼく」を比べて何がちがうのだろう。 6．いじめをなくすために必要な心ってどんな心だろう。
終末	7．教師の説話を聞く。

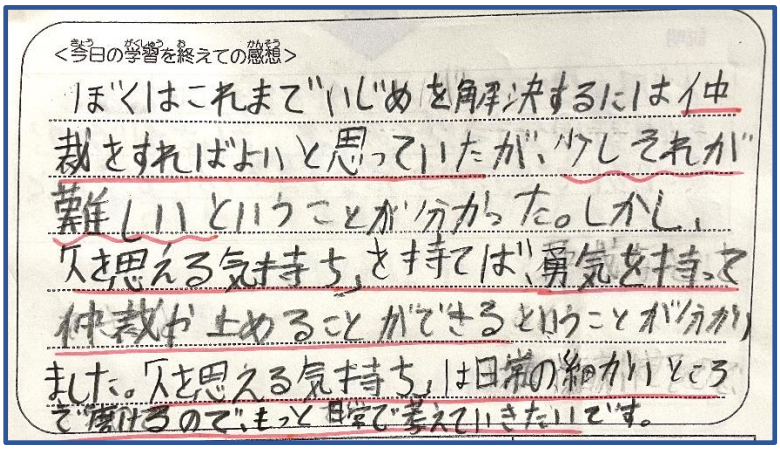
C１：順子さんは愛があるから行動できたと思います。
T：理由を教えてくれる？
C１：理由は森川君のことが好きだから、助けたら惚れちゃうと思ったからです。
T：そしたらさ、順子さんは森川君じゃなかったら言わなかったのかな？
C２：言わなかった！
T：森川君は特別だから言ったのかな？
C３：わからない、順子さんの性格による。
C４：誰でも言った。
T：みんな聞かせて。森川君が特別だから言った（と思う人は挙手）０人
T：そうでないと思う人？　多数が挙手した
T：何でそう思ったの？
C５：順子さんはクラスの人への思いが強いと思ったから森川君じゃなくても（言ったと思う）

ある児童が「森川君のことが好きだから」助けたのではないかという考えが出た。こちらは関連する内容項目を意識して授業に臨んだが、予想していない意見が出て焦ってしまった。しかし、主項目が「公正、公平、社会正義」で、本時のねらいが「だれに対しても偏見をもつことなく公正、公平に接するよさに気付かせ」ることだと自分に言い聞かせ、問い返しをすることができた。その結果、おさえたいポイントから逸脱することなく授業を展開することができた。

ただ、児童の本音に対して準備が不十分だったため「相手のことが好きだから行動に移した」という意見を正面から受け止めることができなかった。関連する内容項目を事前に予想し把握しておくことの重要性をより強く感じた場面だった。また、問い返しをした後にグループでもう一度考える時間をつくることで、より考えが深まることにつながったのではないかと考えた。

授業後の振り返り

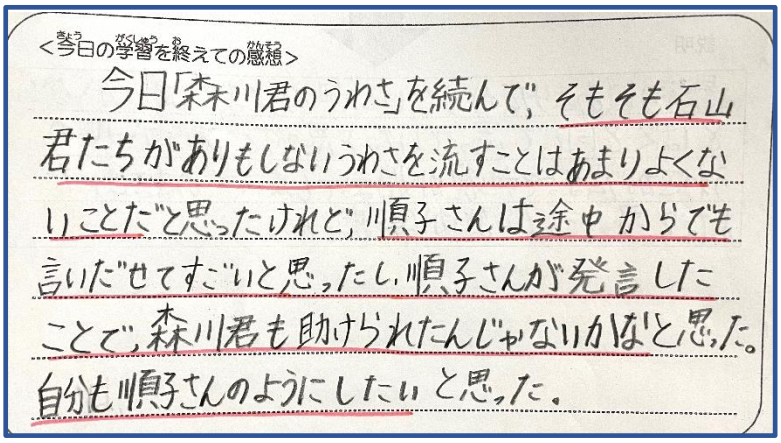
児童Ａ


<今日の学習を終えての感想>
ぼくはこれまでいじめを解決するには仲裁をすればよいと思っていたが、少しそれが難しいということが分かった。しかし、「人を思える気持ち」を持てば、勇気を持って仲裁や止めることができるということが分かりました。「人を思える気持ち」は日常の細かいところで使えるので、もっと日常で考えていきたいです。

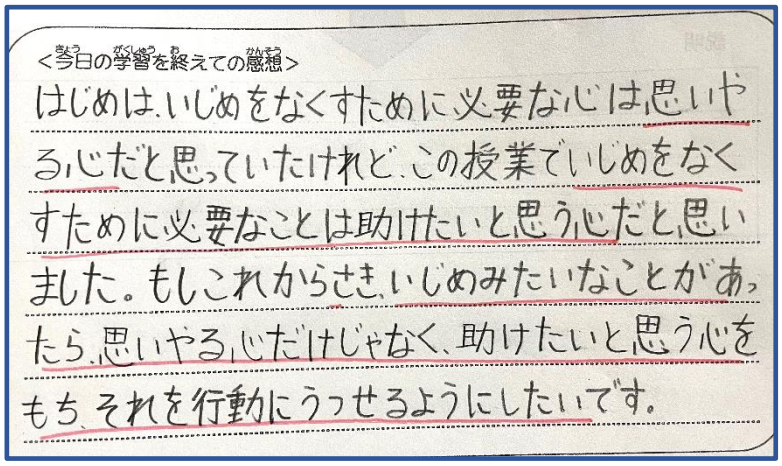
児童Ａは、授業前はいじめが起きた時は「仲裁すればよい」と考えていたが、友達との話し合いの中でいじめが起きた時の状況を想像することでより自分事として考えるようになり、「日常」からいじめが起きないように「人を思える気持ち」を磨いていきたいという考えをもつようになった。

児童Ｂ

児童Ｂは、そもそもありもしないうわさを流すことがよくないということに触れていた。事前アンケートで「いじめをしている人に注意できるか」では、わからないにしていたが順子さんが途中からでもいじめはよくないと言い出せたことに気付き、順子さんのように行動に移したいという考えをもった。


<今日の学習を終えての感想>
今日「森川君のうわさ」を続んで、そもそも石山君たちがありもしないうわさを流すことはあまりよくないことだと思ったけれど、順子さんは途中からでも言いだせてすごいと思ったし、順子さんが発言したことで、森川君も助けられたんじゃないかなと思った。自分も順子さんのようにしたいと思った。

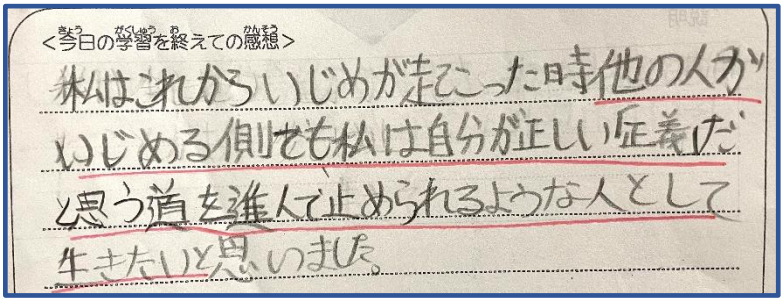
児童Ｃ


<今日の学習を終えての感想>
はじめは、いじめをなくすために必要な心は思いやる心だと思っていたけれど、この授業でいじめをなくすために必要なことは助けたいと思う心だと思いました。もしこれからさき、いじめみたいなことがあったら、思いやる心だけじゃなく、助けたいと思う心をもち、それを行動にうつせるようにしたいです。

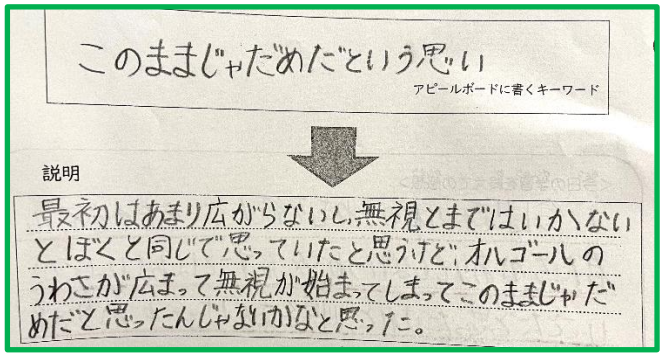
児童Ｃは、授業前はいじめをなくすためには「思いやりの心」が大切だと考えていたが授業後には「助けたという心をもち、それを行動に移せるようになりたい」という考えをもつようになった。友達の考えを聞くことでより自己の生き方について考えを深めるができ、実践意欲につながった。

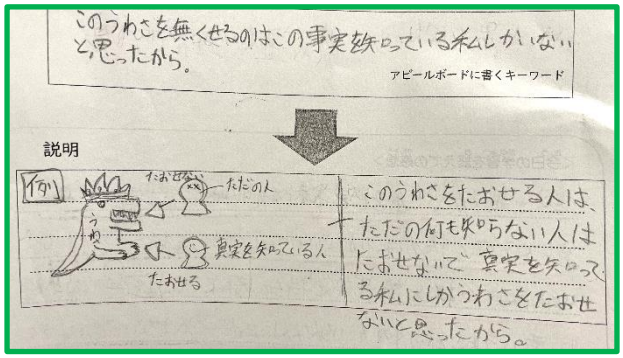
児童Ｄ

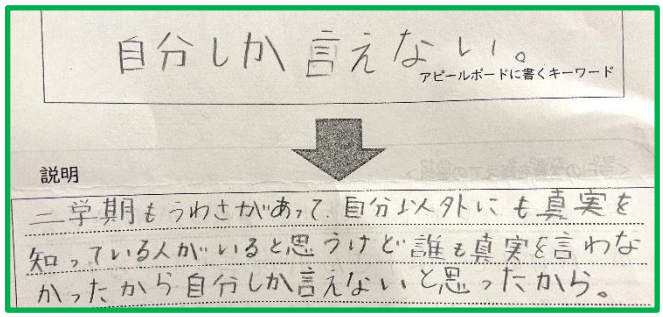
児童Ｄは、授業での内容項目ごとにアピールボードを並べ「正義」というキーワードを示したことで、児童の振り返りで「正義」という言葉を用いて自己の生き方についての考えを深めていた。

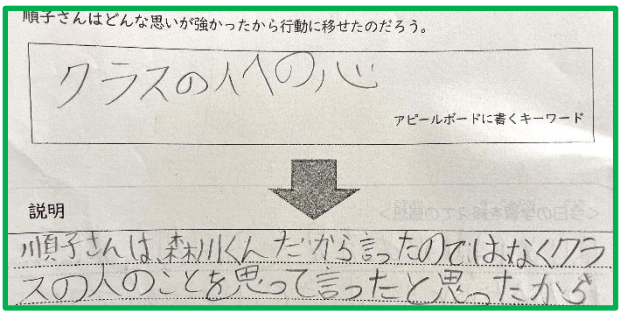


アピールボードで発表するための準備段階

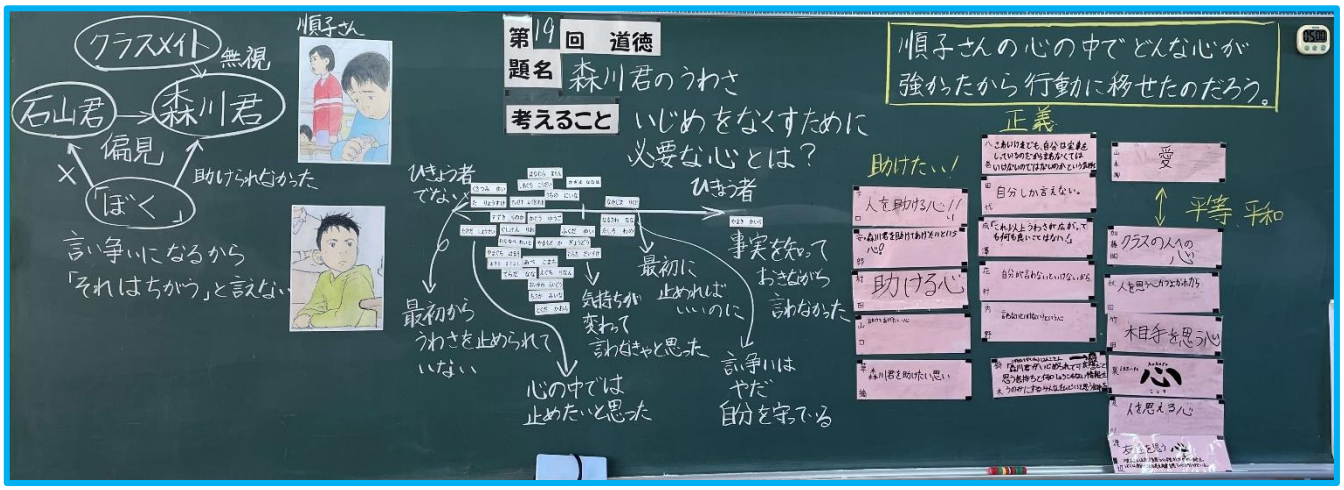








研究授業の板書



５　研究の成果と課題

今回の研究テーマである「児童の考えを深めるための授業の工夫と素地づくり」に迫るために立てた仮設の検証に対する「成果◎」と「課題▲」を考えた。

仮説【１】アピールボードの使用等の手立てを講じることで、児童は自信をもって考えを発表できるようになり、考えの深まりにつながるのではないか。

◎アピールボードの使用

アピールボードを用いたことで自分の考えを発表せずに友達に伝えることができ、新しい生活様式にも合っていて有効性を感じた。また、児童の考えを内容項目ごとに整理しながら黒板に示すことができたことで多面的・多角的な深い学びにつながると実感した。また、アピールボードに示すことで視覚的に友達の考えを見ることができるため、自分の考えと友達の考えを比べながら考えることができ、考えをより深めることができた。

▲自分の考えに自信をもつところまで至らない児童も

アピールボードを用いて友達に発表する際に、自分の考えに自信をもてない児童もいて、友達に対して自分の考えを伝えることができない場合もあった。また、アピールボードに自分の考えを記入する時に小さい字で書いてしまうと黒板に貼った時に見づらいという欠点があるため大きくキーワードで書くように促した。しかし、自分の考えを要約してキーワードで書くことに対して苦手意識を感じる児童にとってはハードルが高くなってしまった。グループで意見を出し合う際に自分の考えをもっていなくても友達の意見を見たり聞いたりして自分の考えをもてるようにしていきたい。

仮説【２】道徳科以外の他教科などでも話し合い活動に重点をおいた授業を展開すれば道徳科の授業でより「考え、議論する」道徳になるのではないか。

◎児童の話し合い活動が活発に

アピールボードを道徳科の授業だけでなく他教科でも使用したり、授業内容に話し合い活動を多く取り入れたりすることで「考え、議論する」道徳科の手助けとなった。また、自分の考えをもつことで授業後の振り返りでは自己と比べたり、自己の生き方について考えたりとより深みのある振り返りができた。

▲決まった児童が発言

話し合いの場面が増えることで道徳科の授業で発言する児童は増えたが、決まった児童が発言する場面があり意図している内容項目にたどり着かない時もあった。また、自分の考えを発言したり書いたりすることが苦手な児童にとっては友達の話を聴く場面が多くなってしまった。一人ひとりが発言するための話し合いの形態などの工夫を模索していきたい。

仮説【３】日頃から児童の考えを認め価値づけることによって自分の考えを相手に伝えたい、友達の考えをより深く理解したいという意欲につながるのではないか。

◎授業での意見交流について

自主学習ノートやワークシートなどでコメントを書いたり個別で頑張りを褒めたりすることで道徳科の授業等で挙手発言が多くなったり友達の考えを聴いて返答しようとする児童が増えたりした。自分の考えを伝えたいという意欲につながったと感じた。

▲文章を書くことへの苦手意識

自主学習ノートやワークシートに文章を書くことに対して苦手意識を感じている児童にとっては自分の考えを伝えたり、友達の考えをより深く理解したりしたいという意欲につなげるところまでは至らなかったように感じる。自主学習ノートやワークシートだけでなく、日常生活での行動で認めることを増やしていきたい。

考察

第２回　道徳アンケート（２月１６日実施）　（単位は%）

	質　　問	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	道徳の授業は、好きだ。	３１	５５	１４	０
2	道徳の勉強はためになる	７９	１８	３	０
道徳の授業の時間に…					
3	自分のこれまでの生活のことを思い出しながら考えようと思う。	６１	３９	０	０
4	物事には、いろいろな見方や考え方があると思う。	７５	２５	０	０
5	友達の考えを聞くと、自分の考えがより深まると思う。	７９	２１	０	０

質問１について、「道徳の授業は好きか」という問いに対して「あまりそう思わない」と答えた児童が前回のアンケートの時より減り、「そう思う」「だいたいそう思う」に移動したことは成果である。しかし、より深く考えることで答えのないことを考える難しさも感じた児童がいたため、「そう思う」と答えた児童が「だいたいそう思う」に移動したと推察できる。道徳科は「正しい答えを見つける学習」ではなく「自分の考えを本音で伝え合い、自分の生き方をより深める学習」であることを再確認して授業に臨みたい。

質問２については、ほとんどの児童が「ためになる」と感じているが、「『当たり前』のことを改めて考える必要があるのか」と考える児童もいた。しかし、「当たり前」と思っていたからこそ、実際に行動することの難しさなどに気付くこともある。道徳科の授業で、友達と共にその難しさやよりよい行動を目

指し、実際に行動に移すことの気持ちよさなどについて考えていくことができるような授業をつくっていきたい。

質問３～５の結果から、道徳科の授業で自分事として考えたり、多面的・多角的な視点をもったりと児童の多様な考え方を生かした授業展開に１歩近づくことができたように感じた。これからも主発問の工夫や問い返しについて研究していきたい。

６　おわりに

本研究テーマは「児童の考えを深めるための授業の工夫と素地づくり」ということで３つの柱である研究仮説をもとに取り組んできた。その根底にあるのは、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別の教科　道徳編」で示されている。道徳教育は道徳科だけでなく、教育活動全体を通じて行うものだという考えのもと、本研究を進めていく中で多くの学びを得ることができた。

道徳科では、アピールボードを活用することで児童の意見を見やすくしたり、内容項目ごとにまとめやすくしたりとコロナ禍でも児童の考えを共有しやすくする手立てとして有用性を実感した。また、主発問を工夫することで児童の思考を深めたり、児童が「考えたい」という意欲に結び付いたりすることがわかり、今後の授業でも生かしていきたいと思う。

「ゆさぶり発問」については、「教材理解・主項目と関連する内容項目」だけでなく児童の実態の把握と事前準備が大変重要になることがわかった。

そして、「問い返し」では児童の多様な考えをただ受け止めるだけでなく、受け止めつつ本時のねらいがブレないような切り返しができるようにしていくことが大切だと感じた。そのためには、日頃の道徳科の授業で常に「問い返し」を意識し、より児童の考えを深める発問になるよう実践していくことが必要だと考える。「ゆさぶり発問」や「問い返し」の経験がまだまだ浅いため、本研究を今後に生かして取り組んでいきたい。

また、道徳科以外の教育活動でも話し合い活動を意図的に入れることでそれが児童の経験値となり、結果的に道徳科の授業での話し合い活動が活発になる要因となった。これを踏まえて、どの授業、どの学校行事などでも児童同士の結び付きを深める手立てを講じることが重要であることを身をもって理解することができた。今後も様々な教科等で実践していきたい。

そして、児童の行動に対して価値づけをすることは、学習意欲につながりより学びの深い授業づくりに直結していることが本研究でわかった。日頃から、児童の些細な頑張りにも目を向け、褒め、励ましていくように心がけていきたい。

本研究を通して、成果と課題が浮き彫りになった。これらの経験をもとに今後の授業改善につなげ、児童の考えを深める授業づくりに努めていく次第である。

資料１

令和　３年度　道徳教育の学校における全体計画

座間市立相模が丘小学校

学校の教育目標

豊かな心をもち、よりよく生きる子の育成

(1) 最後まで頑張る子　意
(2) 自ら学び、考える子　知
(3) 思いやりと感謝の心をもつ子　徳
(4) 健康で、たくましい子　体

◇日本国憲法
◇教育基本法
◇学校教育法
◇学習指導要領

・保護者の願い
・教師の願い
・児童の実態
・地域・社会の実態
・社会の要請

道徳教育の重点目標

よりよく生きようとする良さを知り、人として生きる喜びを感じる。
(1) だれに対しても思いやりの心と、相手の立場に立った優しさをもつ。
(2) 困難があっても、希望と勇気を持ち、目標に向かって粘り強くやり抜く。
(3) 日々の生活や人々の善意に対して感謝の気持ちをもち、それにこたえる行動をとる

各学年の重点目標

低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)
(1) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。(親切・思いやり)	(1) 相手のことを思いやり進んで親切にする。(親切・思いやり)	(1) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場にたって親切にする。(親切・思いやり)
(2) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行う。(希望と勇気、努力と強い意志)	(2) 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く。(希望と勇気、努力と強い意志)	(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。(希望と勇気、努力と強い意志)
(3) 家族など日頃世話になっている人々に感謝する。(感謝)	(3) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。(感謝)	(3) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々支えあいや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える。(感謝) ○よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。

総合的な学習の時間における道徳教育

・自ら課題を見つけて、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
・学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的に、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

各教科における道徳教育

国語	国語による理解力、表現力を育成する上で道徳教育の基盤となる伝え合う力、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本となる思考力や想像力及び言語感覚を養う。
社会	国際社会に生きる日本人としての自覚を持ち、地域社会の歴史や伝統を大切にする態度、心情や公徳心を育てる。
算数	数学的な考えや数理的な処理の仕方を身につけ、論理的な判断力や合理的な生活態度を身につける。
理科	自然と人間生活との関係について理解を深め、生命を尊重し、自然や動植物を愛する心情を育てる。
生活	具体的な体験活動を通して、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学び、生活を豊かにしようとする態度を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や音楽的な感性を育てることを通して、美しいものを尊重する心を養い、合奏や合唱を通して協力する態度や協調心を育てる。
図工	造形活動を通して、創造的表現力や個性の伸長、豊かな心情を育てる。
家庭	家庭生活に対する理解を深め、家族の一員としての協力性・合理性・家族愛を育てる。
体育	健康・安全に留意し、協力・公正・責任の精神・努力と強い意志・規則を尊重する精神などを育てる。
外国語・外国語活動	外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに、言語や文化について体験的に理解を深めることで、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。

特別活動における道徳教育

学級活動	・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、話合いを生かして自己実現しようとする気持ちを養う。
児童会活動	・異年齢の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、自主的、実践的に取り組む。
クラブ活動	・共通の興味・関心を追求する異年齢の集団の中で、協力して活動しながら、個性の伸長を図る。
学校行事	・よりよい学校生活を築くための体験活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

特別の教科　道徳　の指導方針

・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるよう、教師が明確な意図を持ち授業を行う。
・教師と児童、児童相互の信頼関係を基盤に、これまでの教育活動と児童の実態を踏まえて指導にあたる。

児童指導の重点

・一人ひとりの児童に対する理解を深め、個性を認め励まし生かす指導を行う。
・基本的生活習慣を確立し協調性、自立心、忍耐力のある児童を育成する。

その他の学校生活

・道徳的な実践と道徳的習慣の育成

家庭・地域社会との連携による道徳教育

・ＰＴＡ・地域・各種団体との連携を密にし、地域社会との協働の中から道徳性の向上を図る。
(授業参観・保護者会・家庭訪問・個人面談・ホームページ・学校便り・学年便り・学級だより・ＰＴＡ活動・子ども会・おかっこ教室・心・ときめきスクール　等)
関係団体・・・PTA・交通指導員・民生児童委員・青少年指導員・青少年補導員・青少年健全育成連絡協議会・校外連絡協議会　等

6年　全体計画例別葉（教科領域等と道徳との関連計画表）【時系列】　2021年

資料２

学年の重点課題	課題の内容
	法やきまりの意義を理解する 相手の立場を理解し，支え合う態度を身に付ける 集団における役割と責任を果たし，国家・社会の一員としての自覚をもつ

			4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	付録
道徳		光文書院	●一年生のお世話係 ―アフター・ユー― C よりよい学校生活，集団生活の充実 ~~●勇太への宿題~~ ~~A 個性の伸長~~ ●温かいおまんじゅう B 礼儀 ●松井さんの笑顔 B 感謝	●最後のひと葉 B 親切，思いやり ●鶴子，ドンマイ！ B 友情，信頼 ●蓮真和上 A 希望と勇気，努力と強い意志 ●本屋のお姉さん A 正直，誠実	●世界がおどろく七分間清掃 C 勤労，公共の精神 ●かっこいいお父さん C 家族愛，家庭生活の充実 ●扶養で「障がい」をなくしたい ―遠藤 謙― A 真理の探究 ●「マナーからルールへ，そしてマナーへ」 C 規則の尊重	●いちなくなったきまり C 規則の尊重 ●生命のメッセージ D 生命の尊さ	●自然のゆりかご D 自然愛護 ~~●ブランコ乗りとピエロ~~ ~~B 相互理解，寛容~~ ●誠実な人 ―吉田松陰― A 正直，誠実 ●夢に向かって ―三浦雄一郎― A 希望と勇気，努力と強い意志 ●お茶の心 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●命のおにぎり B 親切，思いやり ~~●お茶の心~~ ~~C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度~~ ●本当にだいじょうぶ？ A 節度，節制 ~~●ブランコ乗りとピエロ~~ ~~B 相互理解，寛容~~ ●森川君のうわさ C 公正，公平，社会正義	●きみの声が聞きたい A 真理の探究 ●ブーバーさん C 国際理解，国際親善 ~~●これが日本~~ C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●六千人の命を救った決断 ―杉原千畝― C 公正，公平，社会正義 ●すあしにサンダルの天使 ―マザー・テレサ― D よりよく生きる喜び	●地球があぶない D 自然愛護 ~~●これが日本~~ ~~C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度~~ ●六千人の命を救った決断 ―杉原千畝― C 公正，公平，社会正義	●めざせ，百八十回！ A 個性の伸長 ●負けないで D 生命の尊さ	~~●森川君のうわさ~~ ~~C 公正，公平，社会正義~~ ●命と向き合う人生 D 生命の尊さ ●大空に飛び立つ鳥 A 善悪の判断，自律，自由と責任 ~~●松井さんの笑顔~~ ~~B 感謝~~ ●いちばん近い自然「里山」 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●青の洞門 D 感動，畏敬の念 ●わたしは ひろがる D よりよく生きる喜び	●友のしょうぞう園 B 友情，信頼 ●あやまってすむことじゃない B 相互理解，寛容 ●よみがえれ熊本城 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●羽ばたけ，折り鶴 D 生命の尊さ ●勇太への宿題 A 個性の伸長
学校行事			始業式 入学式 1年生を迎える会	~~校外学習（国会見学）~~ 希望制個人面談	~~休校教室~~ 水族の心得	校外学習（国会見学） 防犯教室 個人面談 終業式	始業式 避難訓練 ~~運動会~~	~~音楽会~~ ~~宿泊学習~~ ~~コミュニティスクール~~ 日帰り修学旅行	~~ファミリーコンサート~~ 音楽発表会	~~ハーフシンクイン~~ 個人面談 終業式	始業式 避難訓練 ~~大掃除大会~~	~~卒業参観~~ 6年生を送る会	卒業証書授与式 修了式	
特別活動	学級活動		●学級目標を決めよう C よりよい学校生活，集団生活の充実 ●係を決めよう C 勤労，公共の精神	●クラスレクをしよう C よりよい学校生活，集団生活の充実	●係活動を見直そう C 勤労，公共の精神	●1学期を振り返ろう A 節度，節制 ●夏休みの計画を立てよう A 希望と勇気，努力と強い意志	●夏休みを振り返ろう A 節度，節制 ●2学期の目標を立てよう A 希望と勇気，努力と強い意志	●学級文庫を活用しよう A 真理の探究	●学級スポーツ大会をしよう B 友情，信頼	●2学期を振り返ろう A 節度，節制 ●冬休みの計画を立てよう A 希望と勇気，努力と強い意志	●3学期の目標を立てよう A 希望と勇気，努力と強い意志	●6年生を送る会の準備をしよう C よりよい学校生活，集団生活の充実	●1年間を振り返ろう A 節度，節制	
	クラブ，児童会，委員会		●委員会活動開始 C 公正，公平，社会正義 ●クラブ活動開始 A 個性の伸長	●全校集会 C よりよい学校生活，集団生活の充実				●全校集会 C よりよい学校生活，集団生活の充実			●全校集会 C よりよい学校生活，集団生活の充実	●クラブ見学会 C よりよい学校生活，集団生活の充実	●1年間の活動のまとめ A 希望と勇気，努力と強い意志	
教科	国語	光村図書	●つないで，つないで，一つのお話 B 友情，信頼 B 相互理解，寛容 ●春の河/小泉美情 D 自然愛護 ●帰り道 B 友情，信頼 B 相互理解，寛容 ●地域の施設を活用しよう C 規則の尊重 ●漢字の形と音・意味 C 規則の尊重 ●春のいぶき C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 ●聞いて，考えを深めよう B 友情，信頼 B 相互理解，寛容	●漢字の広場① C 勤労，公共の精神 ●笑うから楽しい A 正直，誠実 B 親切，思いやり ●時計の時間と心の時間 A 節度，節制 A 希望と勇気，努力と強い意志 ●主張と事例 A 真理の探究 ●話し言葉と書き言葉 B 礼儀 C 勤労，公共の精神	●たのしみは A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●文の組み立て A 個性の伸長 C 規則の尊重 ●天地の文 A 正直，誠実 A 節度，節制 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●情報と情報をつなげて伝えるとき A 善悪の判断，自律，自由と責任 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●私たちにできること A 善悪の判断，自律，自由と責任 A 節度，節制	●夏のさかり C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 ●私と本 A 個性の伸長 A 希望と勇気，努力と強い意志 ●森へ D 自然愛護 D 感動，畏敬の念	●せんねん　まんねん D 自然愛護 ●いちばん大事なものは A 善悪の判断，自律，自由と責任 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 ●利用案内を読もう A 善悪の判断，自律，自由と責任 C 規則の尊重 ●熟語の成り立ち C 規則の尊重 ●漢字の広場② A 個性の伸長 ●やまなし D 感動，畏敬の念 ●イーハトーヴの夢 A 希望と勇気，努力と強い意志 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●言葉の変化 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●狐潜し C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 ●みんなで楽しく過ごすために A 善悪の判断，自律，自由と責任 C よりよい学校生活，集団生活の充実 ●伝えにくいことを伝える A 正直，誠実 B 親切，思いやり	●漢字の広場③ A 個性の伸長 C 勤労，公共の精神 ●『鳥獣戯画』を読む A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●調べた情報の用い方 C 規則の尊重 ●日本文化を発信しよう A 希望と勇気，努力と強い意志 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●古典芸能の世界――演じて伝える C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●カンジー博士の漢字学習の秘伝 A 真理の探究 C 規則の尊重 ●漢字の広場④ A 真理の探究	●往菅　柳山伏 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●「柳山伏」について C 公正，公平，社会正義 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●大切にしたい言葉 A 正直，誠実 B 相互理解，寛容 ●漢字の広場⑤ B 感謝 C 勤労，公共の精神 ●冬のおとずれ C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 自然愛護	●詩を朗読してしょうかいしよう C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 自然愛護 D 感動，畏敬の念 ●仮名の由来 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●メディアと人間社会 A 善悪の判断，自律，自由と責任 A 節度，節制 ●大切な人と深くつながるために A 正直，誠実 B 相互理解，寛容 ●プログラミングで未来を創る A 真理の探究 ●漢字を正しく使えるように C 規則の尊重 ●覚えておきたい言葉 A 希望と勇気，努力と強い意志 ●人を引きつける表現	●思い出を言葉に A 真理の探究 C よりよい学校生活，集団生活の充実 ●今，私は，ぼくは C よりよい学校生活，集団生活の充実	●漢字の広場⑥ C よりよい学校生活，集団生活の充実 ●海の命 D 自然愛護 D 感動，畏敬の念 D よりよく生きる喜び ●中学校へつなげよう A 個性の伸長 A 真理の探究 D 感動，畏敬の念 ●生きる D 生命の尊さ D 自然愛護 D 感動，畏敬の念 ●今，あなたに考えてほしいこと D 自然愛護 D 感動，畏敬の念 D よりよく生きる喜び	
	算数	東京書籍	●学びのとびら A 個性の伸長 A 真理の探究 ●つり合いのとれた図形を調べよう C 規則の尊重 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●数量やその関係を式に表そう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●分数のかけ算を考えよう A 真理の探究 C 規則の尊重	●分数のわり算を考えよう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●分数の倍 A 真理の探究 ●どんな計算に なるのかな？ A 真理の探究	●割合の表し方を調べよう A 希望と勇気，努力と強い意志 A 真理の探究 ●算数で読みとこう A 真理の探究	●形が同じで大きさがちがう図形を調べよう A 真理の探究 ●円の面積の求め方を考えよう A 真理の探究	●角柱と円柱の体積の求め方を考えよう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●およその面積と体積を求めよう A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 ●考える力をのばそう A 真理の探究 ●比例の関係をくわしく調べよう A 希望と勇気，努力と強い意志 A 真理の探究	●順序よく整理して調べよう A 真理の探究 C よりよい学校生活，集団生活の充実	●考える力をのばそう A 真理の探究 C 規則の尊重 ●データの特ちょうを調べて判断しよう A 真理の探究 C よりよい学校生活，集団生活の充実 ●算数で読みとこう A 真理の探究	●算数の学習をしあげよう A 希望と勇気，努力と強い意志 C 規則の尊重		●算数卒業旅行 A 希望と勇気，努力と強い意志 A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 C 国際理解，国際親善	
	英語	東京書籍	●This is me! B 友情，信頼 C 国際理解，国際親善	●How is your school life? B 友情，信頼 C 国際理解，国際親善	●Let's go to Italy. B 友情，信頼 C 国際理解，国際親善	●外国の人にメッセージを伝えよう C 国際理解，国際親善	●Summer Vacations in the World B 友情，信頼 C 国際理解，国際親善	●We all live on the Earth. C 国際理解，国際親善 D 自然愛護	●Let's think about our food. C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 C 国際理解，国際親善	●世界と自分のつながりを紹介しよう C 国際理解，国際親善	●My Best Memory C よりよい学校生活，集団生活の充実 C 国際理解，国際親善	●My Future, My Dream A 希望と勇気，努力と強い意志 C 国際理解，国際親善	●寄せ書きのメッセージを伝えよう C よりよい学校生活，集団生活の充実 C 国際理解，国際親善	
	音楽	教育出版	●つばさをください D よりよく生きる喜び ●にっぽん／おぼろ月夜 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 感動，畏敬の念	●スキルアップ／バナナ　等 D 感動，畏敬の念 ●短調のひびき A 真理の探究	●演奏のみりょく A 真理の探究 D 感動，畏敬の念 ●音／動機をもとに音楽をつくろう A 個性の伸長 D 感動，畏敬の念	●にっぽん／われは海の子 A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●ひびき合いを生かして B 友情，信頼 B 相互理解，寛容 ●音楽ランド／踊りあおう　等 B 友情，信頼 ●音楽ランド／未来への賛歌　等 D よりよく生きる喜び	●ききどころを見つけて A 真理の探究 D 感動，畏敬の念 ●めざせ 楽器名人／The Sound of Music A 希望と勇気，努力と強い意志	●豊かな表現を求めて C よりよい学校生活，集団生活の充実	●音／じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう A 個性の伸長 D 感動，畏敬の念	●私たちの国の音楽 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 感動，畏敬の念	●音楽に思いをこめて C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 D 感動，畏敬の念 ●音楽ランド／あおげばとうとし　等 C よりよい学校生活，集団生活の充実	●音／役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう B 友情，信頼 D 感動，畏敬の念 ●ジャズとクラシック音楽の出合い D 感動，畏敬の念 ●全校合唱／校歌・君が代　等 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	
	家庭	東京書籍	●見つめてみよう生活時間 A 節度，節制 C 家族愛，家庭生活の充実 ●朝食から健康な１日の生活を A 節度，節制 A 真理の探究		●夏をすずしくさわやかに A 節度，節制 A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度		●思いを形にして生活を豊かに A 節度，節制 A 希望と勇気，努力と強い意志 C よりよい学校生活，集団生活の充実		●まかせてね　今日の食事 A 節度，節制 A 希望と勇気，努力と強い意志 C 家族愛，家庭生活の充実		●冬を明るく暖かく A 節度，節制 A 真理の探究 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●あなたは家庭や地域の宝物 C 勤労，公共の精神 C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●２年間のまとめ A 善悪の判断，自律，自由と責任 A 節度，節制	●生活を変えるチャンス！ C 勤労，公共の精神 C 家族愛，家庭生活の充実
	体育	光文書院	●体ほぐしの運動 B 友情，信頼 ●短距離走・リレー B 友情，信頼 C 規則の尊重	●マット運動 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼	●ネット型（ソフトバレーボール） A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 C 規則の尊重 ●水泳運動 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 C 規則の尊重		●表現運動 A 個性の伸長 B 友情，信頼 ●鉄棒運動 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 ●ゴール型 手（バスケットボール） A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 C 規則の尊重	●走り高跳び A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼	●フォークダンス A 個性の伸長 B 友情，信頼 ●跳投　２種競技 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 ●体の動きを高める運動 B 友情，信頼		●跳び箱運動 A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼	●ゴール型 足（サッカー） A 希望と勇気，努力と強い意志 B 友情，信頼 C 規則の尊重		
総合的な学習の時間					●「服のカラプロジェクト」に取り組もう C 国際理解，国際親善		●「服のカラプロジェクト」をはじめよう C 国際理解，国際親善	●「服のカラプロジェクト」に取り組もう C 国際理解，国際親善	●「服のカラプロジェクト」に取り組もう C 国際理解，国際親善					